

第319回くらしの植物苑観察会 令和8年3月28日(土)

## 「くらしの植物苑の地衣類 2」

坂田 歩美 (千葉県立中央博物館 研究部研究課 研究員)

昨年に引き続き、くらしの植物苑に生育する地衣類を観察します。くらしの植物苑では街中から郊外に見られる地衣類が10種程度生育しています。地衣類の中には肉眼で色や形の違いから種類を見分けられるものもありますが、ルーペで拡大して観察しないと区別が難しいものもあります。地衣類を観察しながら、ルーペの使い方や地衣類の見分け方や同定のポイントを学びます。特に、今回は葉状地衣の裂芽<sup>れつが</sup>や粉芽<sup>ふんが</sup>、パステールと言った栄養繁殖器官を中心に観察を行います。これらの区別がわかるようになると、野外で地衣類を同定する際の助けとなります。

また、樹木の幹や枝、岩の上にペンキを塗ったようにべったり付着している痂状地衣<sup>かじょうちい</sup>の中にはルーペを使っても種類を区別することが難しいものも多くあります。種類を区別するためには、有性生殖器官の子器の内部にある子囊<sup>しのう</sup>胞子の形や大きさなどを観察したり、含有する化学成分を分析する必要があります。痂状地衣<sup>かじょうちい</sup>は種類を区別できなくても、ルーペで拡大すると、肉眼ではほとんど分からなかった子器の形の違いやべったり付着しているように見える部分(地衣体)の形の違いを観察することができます。

図1 葉状地衣



裂芽を生じるウメノキゴケ

粉芽を生じるマツゲゴケ

パステールを生じる  
コナヒメウメノキゴケ

図2. 痂状地衣



コナイボゴケ

ニセモジゴケ

レプラゴケ

.....

**次回予告** 第320回くらしの植物苑観察会 令和8年4月25日(土)

『櫻草作傳法』を読む—栽培法を中心に—

水田 大輝氏 (日本大学生物資源科学部アグリサイエンス学科 専任講師)

13:30~15:30

国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑 東屋 定員30名程度